

# そごう<sup>®</sup>

行田総合病院広報誌

FREE



SPRING 2026 社会医療法人社幸会 行田総合病院



特集

地域医療連携室

The Futur of  
Community Healthcare

TOPICS

災害拠点病院  
がん診療指定病院

NUTRITION COLUMN

春バテ対策と春野菜の秘密  
菜の花の豚肉巻き

地域のために。あなたのために。

# 地域医療連携室



Regional Medical Cooperation Office

## ◎地域の医療機関・介護施設からの受診相談や受診予約の受付

患者さんが適切な医療につながるよう、スムーズな受診調整を行っています。

## ◎診療体制や実績に関する情報提供

地域の医療・介護関係者に向けて、当院の診療内容や実績を分かりやすく発信しています。

## ◎医療従事者向け講演会・カンファレンスの企画・開催

地域の医療水準向上を目指し、専門的な学びの場を提供しています。

## ◎地域住民向け市民公開講座の企画・開催

健康づくりや病気予防に役立つ情報を、分かりやすくお伝えする講座を開催しています。

## ◎近隣消防本部への救急医療情報の提供

救急搬送が円滑に行われるよう、消防本部との連携を強化しています。

## ◎救急隊向け勉強会の企画・開催

救急現場での対応力向上を支援するため、実践的な学習機会を設けています。



▲救急隊向けの勉強会（写真）や地域医療懇親会、誰でも参加できる市民公開講座を企画・開催しています。



◆紹介状をお持ちの患者さんの受付は新南棟 1Fで行っています。



▲患者さんが適切な医療につながるよう、スムーズな受診調整を行っています。



▲入院支援看護師による丁寧な説明も。

◆安心して受けられる  
医療環境を整えます

地域の医療機関や介護施設から求められていること一つ一つにきちんと耳を傾け、理解し、そして丁寧に、迅速にかつ最大限に「応える」こと。それが病診連携の基本であり、地域医療支援病院である当院の使命であると考えています。

### ◆地域医療機関との連携促進

地域医療支援病院の基本は、最初に患者さんと接することになるかかりつけ医との連携を深めること。このため地域医療連携室が活発に活動しています。また、当院にはかかりつけ医と共同診療するための開放型病床やCT、MRIなどの高度医療機器を共同利用する仕組みも整備されています。

埼玉県北部という風土や環境にもっともふさわしい機能とスタイルを持った地域医療連携を地域の皆様と共に力を合わせて実現して行くために地域医療連携室は、これからは医療機関・行政・地域の皆様との連携を深め、地域医療の発展に貢献してまいります。

# がん診療指定病院として

## ◆がん診療指定病院って？

現在日本では、がんになる確率は2人に1人、がんで死亡する確率は4人に1人で死因の1位となっています。埼玉県は、人口が多く、がん医療に対する需要も大きいため、優れたがん医療機能を備えた医療機関を整備していくことが必要とされています。

当院は「がん」に関する優れた医療・相談・情報提供体制を切れ目なく提供できるように、「埼玉県がん診療指定病院」に認定されており、埼玉県北部の多くのがん患者さんの治療を行っています。

## ◆緩和ケア研修会を開催

1月25日（日）林副院長、緩和ケア認定看護師、業務課長が中心となり緩和ケア研修会を開催しました。埼玉医科大学総合医療センター／儀賀医師、このす共生病院／中西医師と埼玉県立がんセンターから4名の専門看護師・認定看護師にご協力いただいで当院主催で開催することができました。

緩和ケア研修会は国の開催指針に



# 災害拠点病院として



このような病院全体での災害訓練を定期的に行っています



BCP (Business Continuity Plan : 事業継続計画) 訓練の様子

## ◆災害拠点病院は、地域の他の医療機関を支える病院です

日頃からさまざまな訓練を行い、災害時に備えています。災害が起きた場合には、重症のけが人が同時に多数発生します。そのような時、迅速に災害対策本部を立ち上げ、けが人の重症度・緊急度を考慮して、救出・治療・搬送の優先順位を決めるトリアージなどの訓練も行っています。上の写真は本年2月に行われた「BCP大規模地震災害対策本部訓練」の様子です。東京湾北部地震（行田市震度5強）を想定。災害対策本部長を坂野病院長が務め、地域の被害状況収集の訓練を行いました。

## ◆DMATは2チーム編成

DMAT (Disaster Medical Assistance team) 災害派遣医療チーム)とは、大規模な災害や事故などの発生時に、被災地に迅速に駆けつけ救急治療を行うための専門的な訓練を受けた医療チームです。1チームにつき医師1名、看護師2名、業務調整員1名の計4名で編成することを標準としています。

沿った研修内容で、緩和ケアの基本を習得することを目的としています。そのためがん疼痛など身体症状、精神症状に対してどう診療計画を立てていくかについて講義のほかグループワークも行い、さらには医師役、患者役などそれぞれ役割を当てたロールプレイも行いました。

それぞれの立場によって感じ方が違うことを客観的に学び、埼玉県がん診療指定病院としてがん患者やその家族が抱える苦痛などの軽減を図る緩和ケアについて理解を深めました。

また、当院では様々ながんについての情報提供もしています。新南棟1Fロビーの閲覧コーナーには疾患別の冊子なども取り揃えていますのでご利用ください。



役を割り当てたロールプレイ



儀賀医師による講義



グループワーク



記念撮影



当院の緩和ケア認定看護師とMSWによる講義

# DMAT 活動記録

## 埼玉県特別機動援助隊総合実践訓練

## 埼玉北部地域多数傷病者対応訓練

2026年2月6日（金）

2025年12月18日（木）



フレサ吉見・吉見町民体育館



旧長瀬第2小学校

# がん診療指定病院

全国どこでも、格差のない「質の高いがん医療」を提供することができるよう、地域の実情に応じて、国が指定するがん診療連携拠点病院の機能を代替し、県民に高度ながん医療を提供する病院として県が指定する病院です。さまざまな要件を満たした病院から、埼玉県知事が指定します。

# 災害拠点病院

災害対策基本法に基づいて県知事が指定する病院で、県内や近県で災害が発生し、通常の医療体制では被災者に対する適切な医療を提供することが困難な場合に、都道府県知事の要請により、傷病者の受け入れやDMATの派遣を行う病院です。阪神・淡路大震災の教訓を生かし、災害時医療体制の研究を踏まえて全国に整備されました。

# NUTRITION LETTER

No.01

『春バテ』対策と春野菜のひみつ

監修：栄養科

## 『春バテ』とは？

3・4月は寒暖差が大きく、新生活の準備など環境の変化も増える季節です。この影響で自律神経が乱れやすく、だるさ・眠気・食欲不振などの『春バテ』を感じる方もいます。今回は食事のできる春バテ対策を紹介します。

## 春野菜が苦い理由

昔から「春は苦みを盛れ」という言葉があります。冬の間落ちていた体の代謝を目覚めさせる意味があるとも考えられています。春野菜には、菜の花・ふきのとう・たらの芽などが挙げられ、独特の"苦み"があります。この苦みの正体は、植物性アルカロイドやポリフェノール類といわれる成分です。冬の間じっくり育った春野菜は、害虫や寒さから身を守るためにこうした成分を蓄えます。この苦み成分には以下の作用があります。

新陳代謝を促す

老廃物の排出を助ける

胃腸の働きを刺激する

旬の野菜を取り入れることは"体を整える"ことになります。

## 春バテ対策

①幸せホルモン「セロトニン」の材料をとる



心を安定させる神経伝達物質「セロトニン」は、トリプトファン（大豆製品・乳製品・卵など）というアミノ酸から作られます。

②ビタミンB1で疲労予防



豚肉や玄米、大豆製品に多いビタミンB1は、エネルギー代謝を助け、疲労感の軽減に役立ちます。なんとなく疲れるというときは意識して取り入れましょう。

③朝食で体内時計リセット



朝食をしっかり食べることで自律神経のバランスが整いやすくなります。主食・主菜を揃えたバランスのよい食事を心がけましょう。

## レシピ

### 菜の花の豚肉巻き

<材料>  
 ・菜の花 1把  
 ・豚肉 250g  
 ・小麦粉 少々  
 ・油 適量  
 【タレ】  
 ・醤油 大さじ1  
 ・みりん 大さじ1  
 ・酒 大さじ1  
 ・砂糖 小さじ1

<作り方>  
 ① 菜の花は熱湯でゆで（減塩を心がけ下ゆでの塩はカット）、ざるにあげ水気を切り、冷ます。  
 ② 豚肉は2〜3枚広げ小麦粉をまぶす。  
 ③ 菜の花を豚肉で巻く（長さはお好みで、菜の花を短くカットしてからの方が見栄えがきれいに巻けます）  
 ④ フライパンに油を敷き、③を焼く。全体に焼き色がついたらタレを合わせ加えて、煮立たせ全体からめる。



## 行田クリニック 土曜日の診療

2026年5月9日（土）から

行田クリニックは土曜休診となります。診療は病院外来にて、予約患者さんと急患の診療を行います。受付は新南棟 1Fへお願いします。これまで行田クリニックで診療を行っていた小児科（3月28日以降）、耳鼻咽喉科（3月28日以降）、血管外科（4月25日以降）は、休診となります。

## 2026年5月9日より 行田クリニックの 土曜診療は 病院外来へ移ります。

小児科、耳鼻咽喉科、血管外科は、  
（3月28日以降） （3月28日以降） （4月25日以降）  
**土曜休診となります。**

詳細はスタッフまで。

社会医療法人社団  
行田総合病院

## 行田ケーブルテレビ「健康広場」

2026年5月頃に放送予定

行田市医師会『健康広場』に坂野院長が出演し、病診連携と当院の特長についてお話しします。放送後にはYouTubeでもご覧いただけます。

## 年始の挨拶

2026年1月5日（月）

新南棟 4F 会議室で行われた昼礼にて『年始の挨拶』を賜りました。坂野院長は、『職員研修の充実』『次期医療情報システムについて』『現状の仕事量に慣れる体制を』『診療報酬改定』についてお話をされました。



## 第50回 救急勉強会

2026年2月19日（木）

救急科・桜井医師による救急勉強会『意識障害について改めて考え直してみる～当院搬送例を中心に～』を開催しました。zoom 視聴も含め約80名が参加。行田・県央広域をはじめ、比企広域や妻沼、深谷からもご視聴いただきました。



かかりつけやいつものクリニックで紹介状を受け取ったら

# WEBで予約ができます！

## STEP 1

QRコードを  
読み込む

※ QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。



## STEP 2

質問項目に沿って  
予約希望を入力(Web)



## STEP 3

医療機関からの予約確定日  
連絡を待つだけ

※ 3営業日以内に予約日をご連絡いたします。



地域医療連携室 TEL.048-564-2537